



2014 年度 礼文島国際フィールドスクールについて（お知らせ）

開催概要： アイヌ・先住民研究センターでは、8月1日（金）から8月31日（日）まで、アルバータ大学（カナダ）と共同で、礼文島礼文町浜中地区にある大規模な貝塚遺跡をフィールドに国内外の大学生、高校生、そして地域の住民も参加する国際フィールドスクールを行います。

1. 国際フィールドスクールの目的

本フィールドスクールは、日本学術振興会研究拠点形成事業（JSPS Core to Core Program）とカナダ人文学・社会科学研究評議会重点共同研究（MCRI, SSHRC）の支援を受けて実施するものです。過去2年間に実施されたフィールドスクールには、イギリス・アメリカ・台湾・ドイツなど国外の諸大学から学生の参加がありました。

2m以上堆積する厚い貝塚には、過去数千年間の先史時代の人々の生活の痕跡が良好に残されています。本フィールドスクールでは、国内外から参加した大学院生・学生が、考古学・人類学・古環境学にわたる幅広いフィールド調査の方法や理論を最先端の調査機材を利用しながら学びます。調査を通じて北方圏に展開した先史時代の狩猟採集民社会がいかにして長期的な気候変動に適応し、文化的に多様な独自の文化を形成してきたのかを解明することを目指します。

また、考古遺跡を中心とした文化遺産を地域の文化資源として地域社会の中で再評価する取り組みとして、礼文町教育委員会や地域社会と協力して地域住民向けの体験発掘などの企画も実施します。

2. 開催期間

2014年8月1日（金）～8月31日（日）

※上記期間中、土・日は遺跡での発掘調査を休止します。

なお、現場は28日前後に撤収します。

3. 遺跡の所在地

北海道礼文郡礼文町大字船泊村ホロナイホ 499-2, 499-4, 499-5



4. 主催および研究助成基盤

北海道大学アイヌ・先住民研究センター（調査主体）

アルバータ大学人類学部（共催），礼文町教育委員会，礼文町（調査協力）

調査リーダー：加藤博文（日本側），Andrzej・WEBER（カナダ側）

- ・平成26年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究A）
「アイヌ民族文化の形成過程の解明に向けた総合的研究」（研究代表者：加藤博文）
- ・平成26年度日本学術振興会研究拠点形成事業（先端拠点形成型）
「北方圏における人類生態史総合研究拠点」（プロジェクトコーディネーター：加藤博文）
- ・カナダ社会科学・人文科学研究審議会重点共同研究助成
「バイカル・北海道考古学プロジェクト」（プロジェクトリーダー：A. WEBER）

5. 参加機関

【日本】

研究者：13名（北海道大学，東京大学，慶應義塾大学，山梨大学，琉球大学，北方民族博物館）

大学院生：10名（北海道大学，東京大学，慶應義塾大学，九州大学）

大学生：37名（北海道大学，小樽商科大学，東京大学，慶應義塾大学，京都教育大学）

高校生：11名（北海道有朋高等学校，岐阜県立関高等学校）

一般市民ボランティア：3名

【海外】

研究者：6名（アルバータ大学，台湾故宮博物館）

大学院生：9名（アルバータ大学，オックスフォード大学，ハーバード大学，ハワイ大学，ベルリン自由大学）

大学生：16名（アルバータ大学）

なお、本フィールドスクールは、北海道大学全学教育一般教育演習（新渡戸カレッジ用合宿型野外実習）及び東京大学理学部生物学科自然人類学野外実習の実習生を受け入れています。

お問い合わせ先：プロジェクト事務局

北海道大学アイヌ・先住民研究センター 森 由美（もり ゆみ）

TEL：011-706-2859 E-mail：ymori@jimu.hokudai.ac.jp

ホームページ：http://nt.cais.hokudai.ac.jp/jp/（北方圏における人類生態史総合研究拠点）